

令和 7 年度事業報告

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

1. 学術集会の開催

第 66 回日本母性衛生学会学術集会を以下のように開催した。

会場開催

- (1) メインテーマ：母性衛生が拓く母子の笑顔-
- (2) 会長：小川 久貴子
- (3) 日時：学術集会：2025 年 10 月 10 日(金)・11 日(土)
オンデマンド配信 2025 年 10 月 24 日(金)～11 月 30 日(日)
- (4) 会場：京王プラザホテル（東京都新宿区）
- (5) 参加人数：2761 名（うち現地参加 2000 名程）
- (6) 講演、シンポジウム、セミナーなど

敬称

会長講演

若年母の支援を通じて
座長：越山 雅文
演者：小川 久貴子

理事長講演

超少子化時代の日本母性衛生学会：Think Nutrition First (FIGO) を考える
座長：小川 久貴子
演者：正岡 直樹

特別講演（5 演題）

- 1. 妊娠と子宮頸癌
座長：松峯 寿美
演者：田畑 務
- 2. これからのケアを変える AI：医療・看護・介護の現場実装
座長：大橋 一友
演者：正宗 賢
- 3. 今時の子育て：子どもの成長発達を見守って
座長：西口 富三、稲井 洋子
演者：加部 一彦
- 4. 助産政策
座長：島袋 香子
演者：福井 トシ子
- 5. 私の出産・子育て
座長：松峯 寿美
演者：バービー(株式会社ワタナベエンターテインメント)

教育講演（11 演題）

1. 産科医の立場から安全で快適な分娩を考える

座長：萩田 和秀

演者：鈴木 俊治

2. ハイリスク妊娠

座長：中塚 幹也

演者：水主 川純

3. ハイリスク分娩：周産期医療の連携・協働

座長：金子 政時

演者：宮坂 尚幸

4. 助産師の未来を拓く：アドバンス助産師制度の意義（共催：日本助産評価機構）

座長：村上 明美

演者：内田 朋子、山崎 あや、高橋 景子、岡山 久代

5. 胎児診断～画像診断の point～

座長：関 博之

演者：馬場 一憲

6. 産科麻酔と助産ケア：母子の笑顔とより良い社会のために

座長：立岡 弓子

演者：照井 克生

7. 明日からできる母乳育児ケア

座長：白石 三恵

演者：松崎 政代、平出 美栄子

8. プレコンセプションケアの現状と今後の展望

座長：高橋 眞理

演者：松永 佳子

9. 難病の発症抑制の時代に向けて：脊髄性筋萎縮症の新生児スクリーニングと遺伝子治療

座長：福島 明宗

演者：齋藤 加代子

10. 助産師教育への助産学共用試験の導入

座長：渡邊 典子

演者：村上 明美

11. 妊活をしているカップルへの支援

座長：萩田 和秀

演者：中林 章

2025 年度 JSMHEBP 学会指定研修プログラム（2 演題）

1. JSMHEBP 学会指定研修プログラム A：リプロダクティブヘルス研修 Perinatal Loss を考える

座長：中江 華子

演者：亀井 良政

2. JSMHEBP 学会指定研修プログラム B：研究の研修：研究をすすめていくには

座長：小川 久貴子

演者：坂田 成輝

ハンズオン研修 (2 演題)

1. 助産師外来での超音波画像診断：見て、触って、体験してみよう、超音波検
座長：石川 紀子
演者：谷垣 伸治
2. 産科出血 一分娩後出血への対応（止血手技）－
演者：神保 正利、米山 万里枝

シンポジウム (4 演題)

1. 産前産後のケア
座長：福島 富士子
演者：中嶋 彩、米山 万里枝、横山 いずみ
2. 海外における母子保健
座長：春名 めぐみ
演者：笹川 恵美、小原 ひろみ、駒形 朋子
3. 若年妊婦支援の未来
座長：鈴木 由美
演者：安達 久美子、大川 聡子、大島 由起雄
4. 計画外妊娠への支援
座長：細坂 泰子
演者：浅野 しのぶ、松峯 美貴、白井 千晶

オンラインセミナー (4 演題) 会期後オンデマンド配信のみ

1. 妊産婦フィジカルアセスメント：呼吸・循環
演者：正岡 直樹
2. 分娩期の胎児心拍数陣痛図 (CTG)
演者：入山 高行
3. 緊急時の対応
演者：鈴木 俊治
4. 妊産婦フィジカルアセスメント：脳神経
演者：宮坂 尚幸

市民公開講座 (1 講座)

イクメン・イクボスが拓く笑顔に～少子化社会克服のために

座長：小川 久貴子、高桑 好一

演者：塚越 学

(7) 一般口演 242 演題 (内、コメディカル愛育賞候補 6 演題)

2. 機関誌及び図書の刊行

本会の機関誌はオンラインジャーナル化し、会員はホームページの会員マイページより無償にて閲覧できる。

非会員においては、国立国会図書館、株式会社メテオ(メディカルオンライン)、国立研究開発法人 科学技

術振興機構、医学中央雑誌刊行会を通じて閲覧できるとともに、本会事務局への申し込みで個々に受付け有償にて閲覧できるようにしている。

また、EBSCO に情報提供している。

オンラインジャーナルは以下のように掲載した。

(1) 66 巻 1 号

原 著

1. 日本における「産後の生活」の概念分析 石田都乃, 他
2. 初産婦の産痛に対するコーピング 助田麻樹, 他
3. 母親における異なる分娩様式による出産満足度と児への愛着の関連 左合真生子, 他
4. 新人助産師のキャリア選択の認識とキャリア支援に関する研究 林田聖子, 他
5. A 県における在留ブラジル人女性の出産満足度に関連する出産時の要因 東 真梨子, 他
6. 育児を行う産後女性の手や手首の痛みに影響する要因 西田里穂, 他
7. 母性看護学教育における大規模言語モデル (LLM) 利用に関する予備的研究 久我原朋子, 他
8. 分娩期のアクシデントに直面した助産師に対する病棟管理者の対応 田中美紗, 他
9. 高等学校における月経教育：実態と教育提供者の困難感 和高一希, 他
10. 地域の助産師に必要なコンピテンシー
～子育て世代包括支援センターにおける助産師の役割を中心として～ 堺 香奈子, 他
11. 子育て世代包括支援センターに従事する助産師の役割
一妊娠期から産後 1 年迄の切れ目ない支援一 三橋寛子, 他
- 12.ゲーミフィケーションアプリを活用した運動が運動習慣のない
20-30 代女性の自己効力感に及ぼす影響 鈴木 恵, 他
13. 胎児の健康状態に対する妊婦の気がかりに影響を及ぼす要因の検討 浅野浩子, 他
14. A 県全日制普通科高等学校におけるプレコンセプションケアの現状と助産師の役割 日榮りつ子, 他
15. 分娩介助が助産師の気分状態に及ぼす影響 五十畑麻奈美, 他
16. 予定帝王切開は自然分娩と比べて乳汁生成Ⅱ期の到来が遅れているのか？ 宮内 愛, 他

研究報告

1. 医療的ケア児を育てながら就労している母親の思い
～呼吸管理が必要な児の母親へのインタビューより～ 山本直子, 他
2. 初妊婦の夫の親性、夫婦共同育児の意識とその環境影響
一コロナ禍に産前両親教室に参加した父親の聞き取り調査より一 佐藤初美, 他
3. 開業助産師の母親に『寄り添う』支援についての認識 井上ちはる
4. 医療機関に勤務する助産師の就業継続困難感に関連する要因 板谷裕美, 他
5. 産後ケア事業における母親の利用に関する要因の実態 瀬崎真央, 他
6. 児頭の回旋異常リスクを予測するための妊婦の特徴と要因の検討
一単一施設後ろ向き観察研究一 村上由美, 他
7. 育児不安の増加と養護性との関連に関する文献的検討 本庄美香
8. コロナ禍の助産師が抱えた困難の現状と課題 増渕有紀, 他
9. 24 歳から 34 歳までの子どものいない就労男性に対する食生活と運動習慣

- 及び妊孕性の認識についてのインタビュー調査 中田（中込）かおり，他
10. 10代妊婦の親への移行に関する質的研究 坂本希世
11. 周産期のトラウマインフォームドケア
～総合周産期母子医療センターにおける妊産婦へのかかわりを通して～ 田口奈緒，他
12. A県下における産後ケアの実態と今後の課題 大熊陽子，他
13. 助産学生を対象としたキャリア選択における意思決定ガイド（試作版）の作成と
内容適切性の評価 林田聖子，他
14. 妊娠中の心身の理解と産後のメンタルヘルスとの関連 有本梨花

学習コーナー

- ・『母子保健の歴史』（2） ―わが国の助産師教育の変遷― 遠藤俊子，新道幸恵
- ・国内の人工妊娠中絶について ～治療法における最近の変遷 石谷 健

(2) 66巻2号

原 著

1. 妊娠期女性の生と死に対する態度についての検討 田中美帆
2. 婦人科がん治療後リンパ浮腫患者の症状自己管理の継続に向けた看護介入プログラムの作成と評価
新井恵津子，他
3. 分娩介助実習指導者の指導行動と実習指導に対する捉え方との関連 村田紋子，他
4. 分娩介助技術が児の呼吸状態に与える影響：助産所助産師が行う
watching法と施設助産師が行う standard法の比較 内江 希，他
5. 自治体の産後ケア助成券を使ってデイサービス型産後ケアを利用した母親の思い 渡部奈歩，他
6. 会陰保護技術のシミュレーション教材による定量的評価
―助産学生の实習前段階における技術習得の可視化― 吉村澄佳，他
7. 初めて父親になる男性の育児休業取得前の思い 黒田愛理，他
8. 日本の出産施設における産褥早期の疲労および産後疼痛に対するケアの特徴 竹内翔子
9. 産後1か月の夫婦における男性育休の認知度および取得に関する予定と意識 徳丸由布子，他

研究報告

1. 日本における肯定的な出産体験に影響する要因の文献レビュー 高梨和恵
2. 母親のボンディング障害の関連要因についてのスコーピングレビュー 谷 晴加，他
3. 助産所（院）院長が考える助産所（院）存続のための課題 光武智美，他
4. 鹿児島県における周産期医療機関から行政機関への情報提供の評価
―3種の情報提供書式を用いた情報提供の実際から― 新福絵里香，他
5. 多職種協働で「ハイリスク妊産婦連携指導料Ⅰ」を算定するまでの道のりとCNSの実践 小田郁代，他
6. 2026年丙午に対する若年女性の意識調査 小林宏光，他
7. 育児休業中の母親における産後不安の測定
―永田による「産後の不安尺度」の適用可能性の検討― 堤 明日香，他
8. 「初乳のみを与え，その後人工栄養を行う栄養方法」に関する横断研究
―実態と乳房トラブルに焦点をあてて― 森 水輝，他

学習コーナー

・『母子保健の歴史』（3）

—生殖医療・生殖看護の歴史— 郷司律子，上澤悦子，遠藤俊子

(3) 66 巻 3 号

第 66 回日本母性衛生学会学術集会抄録集

(4) 66 巻 4 号

原 著

1. 前思春期の娘をもつ母親の家庭内月経教育に対する考え 川北笙子，他
2. 母乳育児を希望するメンタルヘルス不調の母親に対して熟練助産師が行う母乳育児支援 渡邊真央，他
3. オンラインを活用した夫婦の育児の協働支援プログラムの開発及び効果の検証
—産後 2 か月の初産婦夫婦を対象とした無作為化比較試験— 津田充子，他
4. わが国における高年初産の夫婦への育児支援に対する助産師の認識および助産師が提供するソーシャルサポートの実態 木下千紗都，他
5. A 総合周産期母子医療センターにおける分娩誘発時の胎児心拍数の連続記録に影響を与える因子に関する後方視的検討 山下彩花，他
6. ナッジ理論を活用した家庭内性教育支援プログラムの実践と有用性の評価 市戸優人
7. 子育て中の母親が子供を 3 人以上持つことに影響を与える要因の解明 押川美月，他

研究報告

1. 高等支援学校教諭の妊孕性教育に関する思い 那須明美
2. 無痛分娩管理体制の実態と無痛分娩に関する教育に対する助産師の意識：
病院勤務と診療所勤務の比較 阪田あみ，他
3. 小学校教員をめざす大学生がもつライフプランと妊孕性知識に関する実態調査 佐藤久恵，他
4. わが国で乳幼児を育てる母親のインターネット利用とヘルスリテラシー
に関するスコーピングレビュー 上野知奈，他
5. コロナ禍で妊娠期を過ごした母親が産後 1 か月までの母乳育児継続を
支えられたと感じるソーシャルサポート 竹田奈々子，他
6. 育児期にある母親のヘルスリテラシーの概念分析 長島珠美
7. 思いがけない妊娠をした女性への受診時の看護者の対応 蚊口理恵，他
8. 新生児聴覚スクリーニングでリファアとなった児の母親へ行う助産師の支援の現状と課題
加藤裕子，他
9. 看護系短期大学生のプレコンセプションケアに関する知識，健康管理の認識・行動と
ヘルスリテラシーの関連 遠藤美穂子，他
10. 産痛緩和法を選択する女性への意思決定エイドの開発 高橋莉抄，他
11. 20 歳代男女が抱く育児へのイメージ 田中泉香，他
12. 母親が高校生の娘の月経随伴症状に対処する上で抱えている困難 西尾彩夏，他
13. 若年成人の娘とともに参加した子宮頸がん予防プログラムが母親の HPV ワクチン

接種推奨意向・行動に与える影響 丹後京香, 他

14. 韓国の産後調理院を利用した母親が心身の回復を促進したと感じたケア・サービス 金 慧敏, 他

15. 産褥5日の女性に対する背部温罨法の影響 山下 恵

学習コーナー

・子育てにおける歴史的背景と産後ケアのこれまでの経緯 米山万里枝

・『JSMHEBP 学会認定制度』について

ーエビデンスに基づく学びをあなたの専門性にー 高橋真理

3. 母性衛生の啓発普及、関連諸団体との連携

(1) 市民公開講座

①開催日：2025年10月10日 場所：京王プラザホテル（東京都新宿区）

・イクメン・イクボスが拓く笑顔に～少子化社会克服のために

座長：小川 久貴子 東京女子医科大学 看護学部 教授

座長：高桑 好一 新津産科婦人科クリニック 不育センター長

演者：塚越 学 NPO 法人ファザーリング・ジャパン副代表/（株）日本ギャップ解決研究所所長

②開催日：2026年1月31日 場所：ビジョンセンター品川 303 号室

（東京都港区高輪 4-1-8 京急第7ビル3階）

その人らしさを大切にする「包括的性教育」

主催者挨拶 公益社団法人日本母性衛生学会常務理事

岡山大学学術研究院保健学域教授 中塚 幹也

座 長 公益社団法人日本母性衛生学会常務理事

神奈川県立保健福祉大学学長 村上 明美

講演 1. 「『性の権利』としての包括的性教育」埼玉大学教育学部 教授 田代 美江子

講演 2. 「助産師と包括的性教育の現状：全国調査から」岡山大学学術研究院保健学域 教授 中塚 幹也

講演 3. 「助産師が行う性教育の実践」

昭和医科大学 助産学専攻科・保健医療学部看護学科 教授 うみかぜ助産院 院長

上田（菊池）邦枝

講演 4. 「小児科医が行う未就学児への性教育の実践」

あいち小児保健医療総合センター総合診療科小児科専攻医 森 重智

総合討論 わが国における「包括的性教育」への期待

(2) 都道府県母性衛生学会代表者懇談会

開催日：2025年10月11日 場所：京王プラザホテル（東京都新宿区）

都道府県母性衛生学会代表者が参加し、都道府県の活動について話し合った。

(3) 後援

- ・ 神奈川母性衛生学会からの第 39 回学術集会に関する後援名義
- ・ 日本産科婦人科学会からの 2026 年 3 月 1 日～3 月 8 日実施「女性の健康週間」に関する後援名義

(4) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会

- ・ 総会（5 月 WEB、3 月会場）出席（2025 年 5 月 25 日、2026 年 3 月 14、15 日）
2026 年 3 月 15 日全国公衆衛生関連学協会連絡協議会学術集会にて当会代表として下記の通り小川久貴子先生に講演頂いた。
「日本母性衛生学会の活動状況と今後の課題」公益社団法人 日本母性衛生学会 小川 久貴子

(5) 第 25 回健やか親子 21 推進協議会総会出席（2025 年 11 月 28 日）

(6) 動画配信：①第 66 回学術集会 オンデマンド配信

配信期間：2025 年 10 月 24 日（金）～11 月 30 日（日）

②2025 年度公開講座 その人らしさを大切にする「包括的性教育」

4. 母性保健に係わる公開講座の助成

- ・ 助成金は、毎年 2 回の募集を行っている。

2025 年度 第 1 回については応募がなく、第 2 回の応募については、西九州大学リハビリテーション学科坂本研究室より申請があり選考の結果、市民公開講座ではなく研修会と判断し、助成不可と決定した。

5. 各種広告・宣伝に関する事業

- ・ 株式会社未来からの広告をホームページに継続掲載（1 年間）
- ・ 太陽生命保険株式会社からの広告をホームページに継続掲載（1 年間）

6. 会員相互扶助に関する事業

(1) 学術優秀賞及び奨励賞の論文の選考

- ・ 学術論文優秀賞及び奨励賞の授与

学術論文優秀賞

題名：麻酔分娩と非麻酔分娩の分娩時出血量の比較および初産婦の出血量への影響要因の検討

著者：寺口 顕子、大石 時子、堀越 摂子、吉田 千草 茂木 寿江、渡部 由芽、今村 禎子、佐藤 雄一

掲載：65 巻 4 号

学術論文奨励賞

題名：母親のレジリエンスと育児不適応との関連についての研究

著者：嶋 紋華、管生 聖子、遠藤 誠之

掲載：65 巻 1 号

・優秀演題賞の授与

日本母性衛生学会学術集会優秀演題賞

題名：両親の語りかけが早産児の呼吸・SpO₂・心拍・State に与える影響に関する研究

ランダム化並行群間比較試験

著者：木田 祐作、谷口 朋子、渡邊 祐子、濱砂 馨、児玉 由紀

掲載:66 巻 3 号

題名：女性のプレコンセプションケア・ヘルスリテラシーの向上を目指す教育プログラムの有用性の検討

著者：川村 千恵子、清水 美樹、渡邊 香織

掲載:66 巻 3 号

題名：地域在住後期高齢者における嚥下障害とオーラルフレイルの関連性

著者：那須 真弓

掲載:66 巻 3 号

(2) 名誉会員・功労会員の表彰

下記の名誉会員 3 名が表彰された。

名誉会員 大橋 一友、高桑 好一、山田 秀人

(3) 慶弔費

今年度は該当がなかった。

(4) 研修会及び講習会による教育支援及び認定

① 2025 年度教育認定制度 JSMHEBP は、第 3 回 JSMHEBP 研修プログラムとして

「周産期メンタルヘルス分野」、「リプロダクティブ・ヘルス分野」の 2 分野を開講した。

第 3 回 JSMHEBP 研修プログラム 2 分野の受講者は、周産期メンタルヘルス分野 19 名、リプロダクティブ・ヘルス分野 35 名であった。

2026 年 2 月 22 日、第 3 回 CBT (Computer Based Testing) 試験を Zoom と Google フォームを用いて実施した。最終合格者は周産期メンタルヘルス分野 11 名、リプロダクティブ・ヘルス分野 19 名であり、ホームページに認定者を公開している。

② 2025 年 10 月 10 日、11 日第 66 回日本母性衛生学会学術集会で認定制度の指定プログラムを実施した。

③ 第 3 回 JSMHEBP 研修プログラムは、「周産期メンタルヘルス分野」、「リプロダクティブ・ヘルス分野」の 2 分野を開講した。すべての分野に共通する、「研究の基礎に関する科目」12 本、「周産期メンタルヘルスに関する科目」9 本、「リプロダクティブ・ヘルスに関する科目」16 本の e-learning 動画教材を 2025 年 8 月 4 日～2025 年 11 月 14 日までの期限で e-learning

動画を配信した。

2026年度は「周産期ハイリスク分野」、新たに「周産期フィジカルヘルス分野」の2分野を開講し、2027年2月末にCBT（Computer Based Testing）による最終試験の実施を予定しており、引き続き会員の教育支援を行う。